



保育の原点に

学園長 小島 澄人

新年度を迎える準備、昨年度の整理と忙しくしている間に、いよいよお迎えの時となりました。桜は満開、春を知らせる木々の新芽が惜しみなくその美しさを、見てみて、と本当に満開です。もうタケノコもたくさんとれました。

子どもたちの満面の笑顔を早く見たい、子どもたちの歓声を早く聞きたい。子どもたちとの出会いを今か今かと待っていました。教職員もやる気満々です。コロナに気をつけ、精一杯幼稚園生活を楽しみたいと思います。

今年度の保育目標は、「保育の原点に」です。教職員の気持ちを高めつつ、その思いを「こどもに」、教職員の研修を深めつつ、その学びを「こどもに」傾けていきたい。

自分の気持ちも学びも時間も、まずは子どもですね。その動きも表現も子どもに向かうことに心がけていきたい。まず第一は子どもです。子どもに気持ちが向いていなければ、「見えないものも見え、聞こえないものも聞こえ、感じられないものも感じられる者」になれません。自分から思いを伝えられれば聞こえても、子どもたちも信頼関係が深まらなければ伝えてこないことが一杯です。早く「先生、大好き!」になるよう、早く「この子が本当に大好き!」になりたい。保護者の皆さんとも子どもとの共有関係を持ち、「ねえねえ聞いてよ教えてよ」の関係でいたい。

「保育の原点」は、結果に走らず、です。お餅つきも、自分たちで植え、育て収穫しお米にした餅米を餅つきする。すべてが種から植え、育て、食する、そうした経過をも大切にしていきたい。食農食育に限らず、すべての保育は子どもの手で体験して学ぶことに重点を置き、ひとつひとつ丁寧に進めていきます。

先生も保護者も、ただ「こどものため」、その気持ちは同じです。共に頑張りましょう。

